

4 特別活動

「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」につながる資質・能力を育む特別活動

【方向性】

特別活動では、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」につながる資質・能力の育成を目指す。各学校では、特別活動の目標及び各活動・学校行事の目標の達成のため、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や児童生徒の発達の段階を考慮し、家庭や地域と連携を深めながら、①多様な他者と協働することの意義を理解し、行動の仕方を身に付けること ②課題を解決するために話し合い、合意形成や意思決定をできるようにすること ③身に付けたことを生かし、生活及び人間関係の向上や自己実現を図ろうとする態度を養うことが求められる。

また、特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となることを踏まえ、学んだことを振り返りながら新たな学習や生活への意欲につながったり、将来の生き方を考えたりする活動を充実させる必要がある。キャリア・パスポートを整備・活用し、教師が対話的に関わることで、より系統的な指導が期待できる。さらに、道徳科との関連を考慮し、道徳教育の内容について、特別活動の特質に応じて適切に指導をすることが望まれる。

各学校では、学習指導要領の特別活動の改訂の趣旨を十分理解し、特別活動の全体計画や学校で定める評価の観点（以下、全体計画等という）に基づいて各活動・学校行事の年間指導計画・評価計画（以下、年間指導計画等という）を作成するとともに、特別活動の評価を工夫し、指導に生かしていく必要がある。

【課題】

（1）学級活動の指導計画の作成と話し合い活動の充実

学級活動については、特別活動の全体計画等を踏まえて「学校としての学級活動の年間指導計画等」を作成し、それを基に「学級ごとの学級活動の年間指導計画等」を作成する。

その際、学校の実態や児童生徒の発達の段階を考慮すること、児童生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること、各教科等との関連を踏まえ、系統立てて計画的に指導できるようにすること、児童生徒の自発的、自治的な活動を一層重視する観点から、活動内容(1)を充実させること、活動内容(2)及び(3)においても、教師の適切な指導の下、積極的な話し合い活動の充実に努めること、児童生徒の実態や発達の課題等を考慮して、指導内容の重点化及び内容間の関連や統合を図ることなどが大切である。また、「キャリア・パスポート」の活用を年間指導計画に位置付け、新たな学習や生活への意欲につながったり、将来の生き方を考えたりする活動を行う際に、活用を工夫する。

（2）自主的、実践的な態度を育てるクラブ活動、児童会・生徒会活動の充実

小学校におけるクラブ活動については、クラブ活動の目標が十分に達成できる授業時数、かつ、「(1)クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営」「(2)クラブを楽しむ活動」「(3)クラブの成果の発表」の3つの内容が効果的に行える授業時数を、年間、学期ごと、月ごとに適切に充てるのが大切である。

小学校における児童会活動では、異年齢集団による交流を通して学校の諸問題を話し合い、合意形成したことについて自分の果たすべき役割を決めて責任を果たし、協力する機会を多く設定するなど、児童の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにする必要がある。その際、教師は、児童にとって過重な負担とならないよう、また、児童の自治的な活動として任せることのできない活動の条件を明確にするなどの配慮をして指導に当たることが大切である。

中学校における生徒会活動では、小学校での児童会活動で身に付けた資質・能力を基礎にし、生徒の自発的、自治的に活動する態度や能力を高めていくようにすることが必要である。その際、生徒の自主性、自発性をできるだけ尊重し、生徒が自ら活動の計画を立て、それぞれの役割を分担し協力し合って集団活動を進めるよう、教師が適切に指導・援助することが大切である。

（3）学校行事の内容の見直しと体験的活動の充実

学校行事の指導計画については、特別活動の全体計画等を踏まえ、全教職員が関わり年間を見通した適切な年間指導計画等を作成することが大切である。さらに、それを基に行事ごとの指導計画を作成することになる。

学校行事の内容の見直しに当たっては、学校や地域及び児童生徒の実態に応じて、種類ごとに、行事及びその内容の重点化や、行事間の関連・統合を図るなどして、精選することが大切である。

実施に当たっては、学校・地域の実態及び児童生徒の発達の段階に応じた様々な人々との触れ合いや、自然体験・社会体験など体験活動の充実に努め、それらを通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり発表し合ったりする活動を工夫することが大切である。

【参考資料】

・「令和6(2024)年度 指導の指針」	R06.3	県教委
・「学校文化を創る特別活動【中学校・高等学校編】」	R05.5	国研
・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(小学校)(中学校)	R02.3	国研
・「『キャリア・パスポート』の導入に向けて～小・中・高の学びをつなぐキャリア教育充実のために～」	R02.1	県教委
・「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(リフレット、指導資料)	H30.7、H30.12	国研
・「学習指導要領解説 特別活動編」【小学校版】【中学校版】	H29.7、H29.7	文科省